

公益財団法人 近畿警察官友の会「夏季教養講座」、2025年8月22日

一神教とは何か

同志社大学 学長

こはら かつひろ
小原 克博

1

1

日本社会にとっての一神教

2

一神教と多神教をめぐる虚実

- ・ 一神教、特にイスラームは危ない。
- ・ 一神教は排他的・独善的・好戦的・自然破壊的であるのに対し、多神教は寛容・協調的・友好的・自然と共生的である。

一神教に対するリテラシーが必要

3

異質なものに対する対応の歴史

- ・ キリシト教に対する憧れと恐怖（16世紀以降）
- ・ 虚像と実像の混在
- ・ 禁制以降、「切支丹」のイメージが貧困化し、虚像が増殖していく。
- ・ 「一神教 vs 多神教」の二項対立に代表される文化ナショナリズムにもつながっていく。

4

2

一神教にかかわる私の経験から

5

- ・ドイツでの経験（1988～91年）
- ・9.11同時多発テロ事件（2001年）
- ・一神教学際研究センター（CISMOR）の設立（2003年）
- ・21世紀COEプログラム（2003～07年度）「一神教の学際的研究——文明の共存と安全保障の視点から」
- ・同志社大学神学部における一神教カリキュラム（キリスト教・ユダヤ教・イスラーム）の開始（2003年）

6

同志社大学 一神教学際研究センター

- ・2010～15年、センター長を務める
- ・2015～現在、良心学研究センター長
- ・対話の対象とされてこなかった人々（グループ）との対話
- ・キリスト教：福音派（ファンダメンタリスト）
- ・イスラーム：過激なイスラーム主義者、タリバーン

7

小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書、2018年）

- 第一章 日本文化論としての一神教批判
- 第二章 一神教の起源と展開
—— グローバル・アクターとしての一神教
- 第三章 一神教の基本的な考え
—— 何が同じで、何が違うのか
- 第四章 一神教世界における戦争
—— 戦争は不寛容の結果か
- 第五章 現代世界における課題
—— 不寛容をいかに抑制するか
- おわりに—— 「寛容の文化」を育てていくために



8

小原克博『ビジネス教養として知っておきたい 世界を読み解く「宗教」入門』日本実業出版社、2018年

- ・グローバル・ビジネスへの対応：宗教リテラシーの必要性、組織の持続可能性
- ・自分たちの価値観を外部から見る視点：それがなければ何に縛られているかを理解できない。
- ・日常の中に非日常を見出す力：セレンディピティ（serendipity）の気づき、活用



9

3

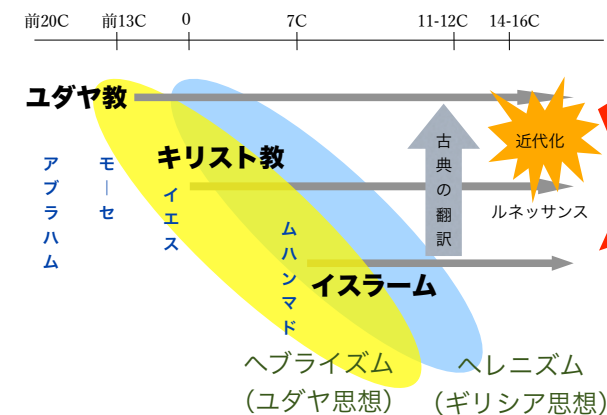
一神教の過去・現在・未来

10

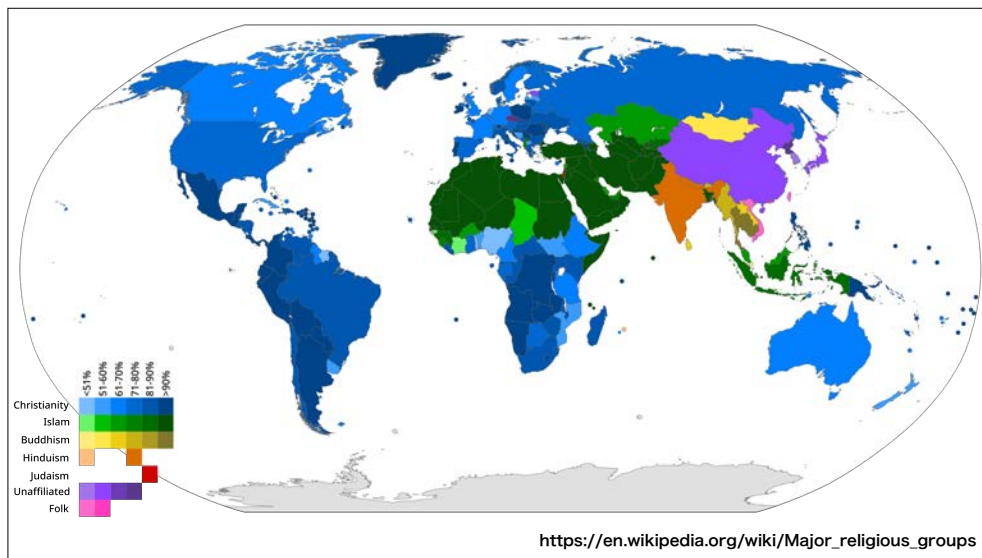


11

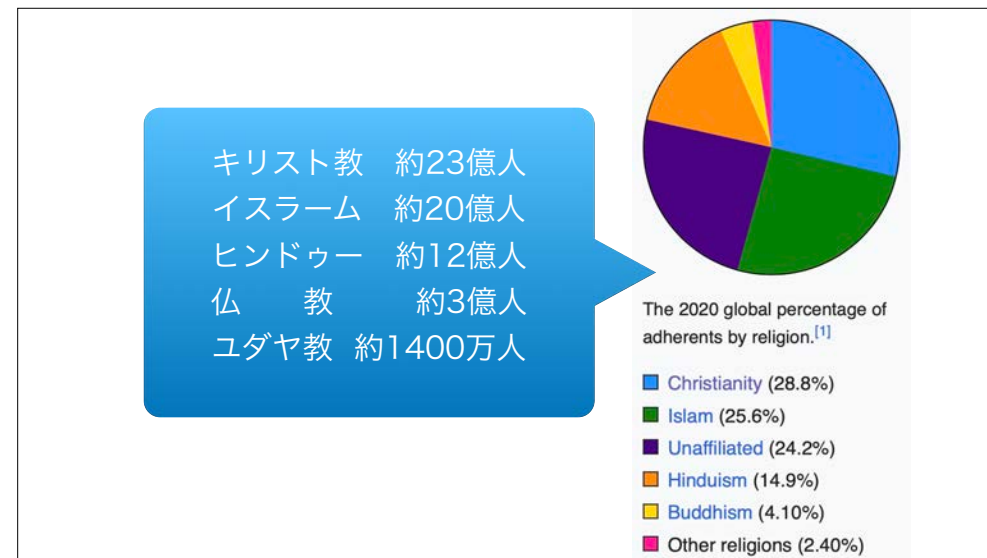
一神教の文明論的系譜



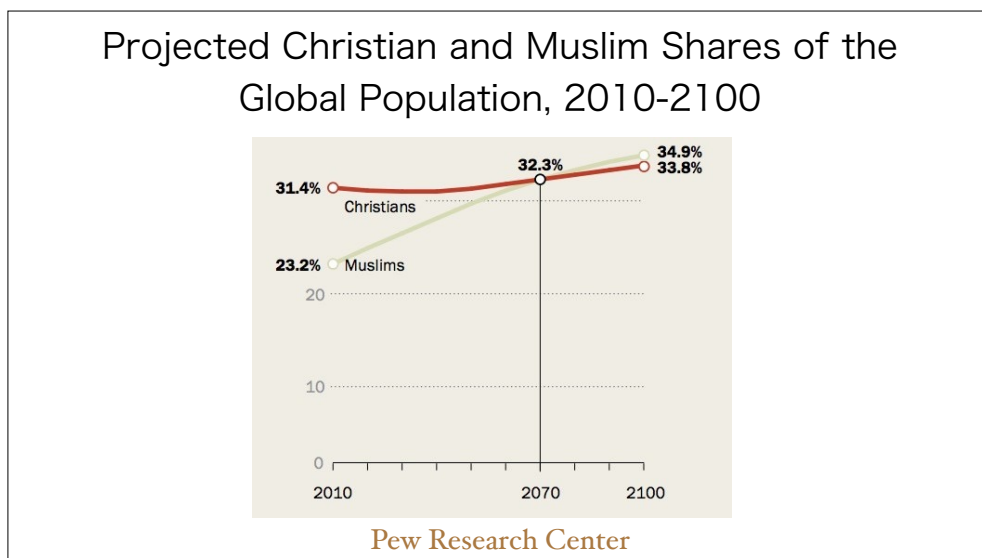
12



13



14



15

4

ユダヤ教とその社会

16

ユダヤ人の歴史（1）

- ・モーセ五書（創世記・出エジプト記・レビ記・民数記・申命記）を中心とする聖書に基づく信仰。
- ・天地創造、エデンの園、アダムとエバ、失楽園、バベルの塔、ノアの洪水
- ・ローマ帝国への反乱（132-135年）で敗北後、国を失い、離散（ディアスポラ）の民として各地に居住。

17

ユダヤ人の歴史（2）

- ・金融資本とユダヤ人
- ・中世ヨーロッパ、十字軍によるユダヤ人襲撃（財産を金・銀に）
- ・就業制限（農業従事者・職人になることはできなかった）
→ 金融業
- ・**シオニズム運動**（19世紀末に始まったユダヤ人国家を建設しようとする運動。「シオン」はエルサレムの別名）、**ホロコースト**を経て、1948年、イスラエル建国。

18

ユダヤ教から学ぶ

- ・安息日（労働の禁止）
- ・金曜日の日没から土曜日の日没までの一日、神が創造の業を終え、「安息」したことを覚える。
- ・「安息日を心に留め、これを聖別せよ」（出エジプト記 20章8節）
- ・社会格差のリセット、日常生活のリセット



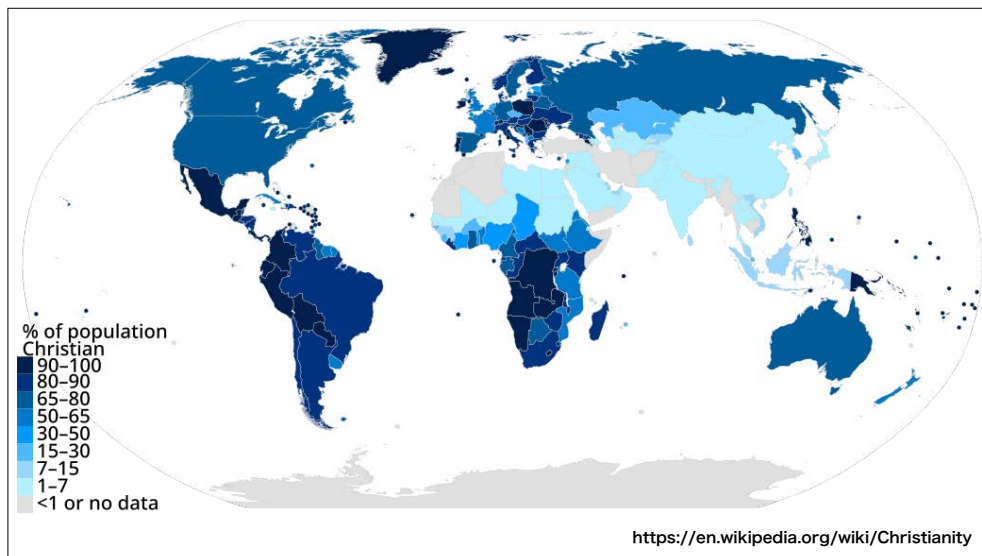
シャバット・エレベーター（イスラエル）

19

5

キリスト教とその社会

20



21

キリスト教

- ・西洋的価値観のベース
- ・アジア・アフリカで伸張
- ・伝統と多様性をめぐる議論と変化
- ・多様な教派（カトリック、正教会、プロテスタント等）があるだけでなく、保守派からリベラル派まで幅広い。
- ・対立する価値観をめぐる論争（米国において顕著）

22

米国の宗教

- ・プロテスタント 43%（減少傾向）
- ・カトリック 20%（減少傾向）
- ・無宗教 26%（増加傾向）
- ・モルモン教 2%、ユダヤ教 2%、イスラーム 1%、ヒンドゥー 1%、仏教 1%、他の宗教 3%、無回答 2%

Pew Research Center "In U.S., Decline of Christianity Continues at Rapid Pace" (2019)より

23

米国における価値観の分断——文化戦争

- ・福音派・宗教右派
- ・伝統的な価値の崩壊（中絶や同性婚等）に立ち向かうために、教派を超え大同団結し、政治的影響力を及ぼす。
- ・文化戦争（Culture War）の争点
- ・中絶、同性婚、銃規制、地球温暖化、移民、政教分離など

24

トランプ運動と信仰復興

- ・ドナルド・トランプは、保守派クリスチャンが抱く危機意識を巧みに受けとめ、自らが伝統的なキリスト教の擁護者であると主張し、支持をとりつけた。
- ・トランプ現象は、トランプという特異な人格の持ち主によって引き起こされた一過性の現象ではなく、それ以前にすでに存在していた信仰復興運動と政治（ナショナリズム）との構造的な関係の上に生起したと言える。

25

分断の例外としての親イスラエル

- ・共和党、民主党ともに、イスラエルとの関係を重視する（共和党の方が強く重視）。
- ・2017年、第一次トランプ政権はエルサレムをイスラエルの首都として認定し、2028年、米国大使館をテルアビブからイスラエルに移した。
- ・親イスラエルの中核の一つは、キリスト教シオニズム
 - ・イスラエル建国（1948年）を神の摂理と考えている。

26

6

イスラームとその社会

27



28

スンナ派とシーア派

- ・ スンナ派（スンニ派）
 - ・ 預言者ムハンマドの打ち立てた慣行・規範（スンナ）を重視する人々がスンナ派。スンナ派はムハンマドやカリフ（後継指導者）を人間と見なし、共同体（ウンマ）の合意を重視する。
- ・ シーア派
 - ・ 預言者ムハンマドの血統を重視し、いとこのアリー（第4代カリフ、在位656-661）を指導者に仰いだのがシーア派。シーア派は指導者を絶対的な判断を下すイマームと呼び、神格化している。イラン、イラクが中心。

29

ムスリム（イスラム教徒）とは

- ・ 「アッラー以外に神はなく、ムハンマドは神の使徒であることを私は証言します」をアラビア語でムスリムの前で唱えることによって、ムスリムとなる。
- ・ 六信五行
 - ・ 六信：（1）神、（2）天使、（3）啓典、（4）預言者、（5）来世、（6）予定
 - ・ 五行：（1）信仰告白、（2）礼拝、（3）喜捨、（4）断食、（5）マッカ（メッカ）巡礼

30

シャリーア（イスラーム法）

- ・ 宗教儀礼（食生活、礼拝、断食など）、結婚・離婚、葬儀、遺産相続、裁判、戦争など生活の全般にわたる指針を示す。
- ・ 法学派によって、解釈上の違いがある。

31

イスラームから学ぶ

- ・ ラマダーン月の断食
 - ・ 共同の身体的経験、信仰の再確認
 - ・ 30日間、日の出から日没まで飲食を絶つ（水も不可）。ただし、老人、子ども、病人、旅人は例外。夜には、家族・友人たちとご馳走を食べる（イフタール）。
 - ・ 身体性の自覚、祝祭的時間

32

変化する中東情勢

- ・一神教の共存の歴史
- ・イラク戦争（2003年）以降の変化
- ・アラブの春（2011年）以降の変化
- ・ガザ・イスラエル紛争（2023年）以降の変化

33

ヨーロッパにおけるムスリム

- ・ ヨーロッパ全体 4.9%
- ・ フランス 8.8%
- ・ ドイツ 6.1%
- ・ 英国 6.3%

Pew Research Center “Europe’s Growing Muslim Population” (2017)より



34

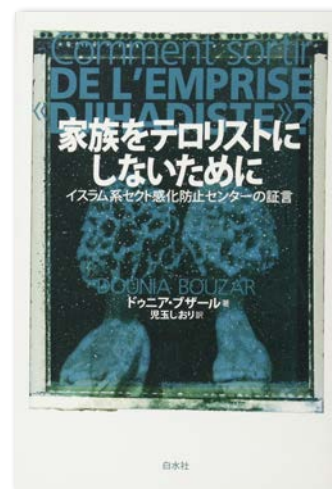
事例：イスラム化するフランス

- ・人口の8.8%がムスリム
- ・イスラム嫌い（Islamophobia）の増加
- ・並立社会の形成
- ・移民排斥を主張する右翼政党（マリーヌ・ルペンを会長とする「国民連合」）の躍進
- ・ドイツでも極右政党「ドイツのための選択肢」（AfD）が躍進。

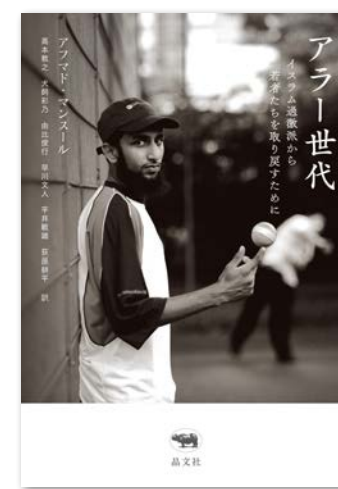


[https://ja.wikipedia.org/wiki/国民連合_\(フランス\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/国民連合_(フランス))

35



フランスにおけるテロ対応



ドイツにおけるテロ対応

36

7

おわりに 争い・分断との向き合い方

37

日本社会における「争い」

- ・ 一神教世界と比べ、多神教的な日本は寛容で「争い」が少ない？
- ・ 「争い」を回避する集団道徳
- ・ 「争わない生き方」を強調（協調性、我慢する、出る釘は打たれる）。同調圧力の強さ。助けを求めること、異議申し立てすることが難しい社会。企業の場合、内部告発も難しい（不正行為が黙認・放置される）。

38

二項対立的に語られる世界の中で

- ・ 対テロ戦争（9.11以降）：米国の側か、テロリストの側か
- ・ 民主主義国家か、専制国家か（バイデン米大統領・当時）
- ・ 反ロシアか、親ロシアか
- ・ 分断するアメリカ社会、国際社会。日本社会も？

争いを激化させないためには、対立する集団をとりなす仲介者が必要

39

信じることと疑うことのバランス

- ・ 疑うこと（批判的内省）が失われると、信念が絶対化（暴走、暴力化）する。集団の「カルト」化（例：オウム真理教）。
- ・ 自らの信仰（無信仰）を客観的・批判的に見ることのできる「宗教リテラシー」（宗教再教育）が必要。
- ・ 他者の信仰や信念に対し、偏見を持ったり、誤解しないためにも「宗教リテラシー」が必要。

信じることと疑うことを両立させる宗教リテラシー教育が必要

40